

## 2. 特別講演

### 2. 1 Learning To Become a Monkey Evolution of a Primateologist (生物分野)

#### (1) 研究開発の課題 (研究概要)

SSHの講演会では、研究室の中で行うミクロな研究内容の講演が多い。生物の講演は、特別研究と同じく、生徒の少ない体験でも、想像しやすくわかりやすいテーマ（ニホンザルやチンパンジーの学習行動）を選び、京都大学霊長類研究所マイケル・ハフマン准教授に講演をお願いして、フィールドワーク（野外観察）による研究の面白さおよびその重要性を紹介していただいた。本年度も、チンパンジーの行動の内容を少し減らし、その代わりに英語と日本語の両方を混ぜての講演をハフマン先生にお願いした。

#### (2) 研究開発の経緯

平成28年4月京都大学霊長類研究所のマイケル・ハフマン准教授に特別講演の協力についての内諾をいただいた。

#### (3) 研究開発の内容

##### ア 仮説 (ねらい、目標)

本事業は科学への関心や英語コミュニケーション力などの「科学リテラシー」や「国際性」を促すことができる。

##### イ 研究の内容・方法

該当教科 SSH発展

対象生徒 普通科3年理系生物選択者

日時場所 7月11日(月)本校 生物講義室

##### 実施内容

演題 「Learning To Become a Monkey Evolution of a Primateologist」

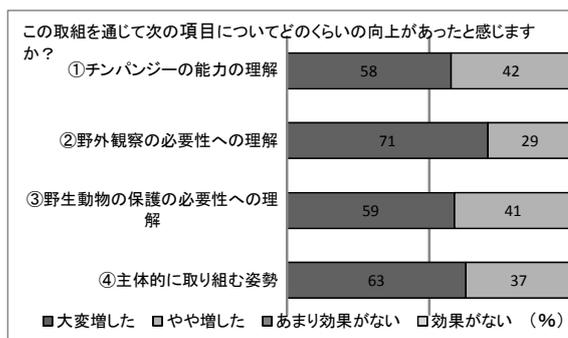
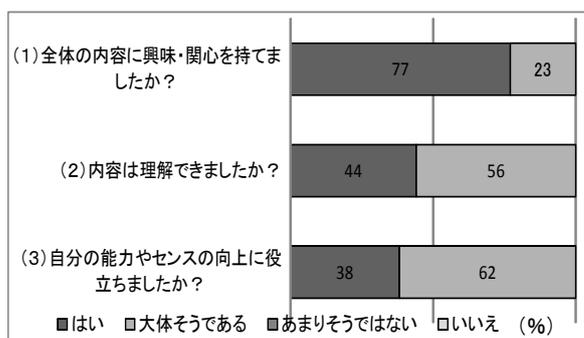
講師 京都大学霊長類研究所 准教授 マイケル・ハフマン 先生

内容 サルの観察の方法、チンパンジーの薬草の利用、ヒトへの応用



生徒の質問を受けるハフマン先生

##### ウ 検証 (成果と反省)



##### 生徒の感想から

チンパンジーの研究1つとっても、植物学、薬学、行動学など様々な分野が関わっているのが面白いと思った。チンパンジーが自分で病気を治すために薬となる植物を食べるということに驚きました。チンパンジーが薬草を使うのは驚きだったが、それよりも自然界に寄生虫が当たり前のように存在しているのが驚きだった。

アンケート結果や生徒の感想から、生徒にとって興味・関心が高まったことがわかる。

本年も、理系生物選択者だけに講演を行った。多くの生徒が英語と日本語の混ざった講演に対する方法の感想は記述せず、講演の内容に対する感想ばかりであった。この特別講演をこの方法で来年度も続けて計画していきたい。